

# 市民が輝く予算となるか 市民の視点でチェック

認定

令和8年度 予算

過去最高 **568億8,690万円**

- ・一般会計 397億1,200万円
- ・特別会計 119億 10万円
- ・企業会計 52億7,480万円

3月定例会が2月26日から3月26日までの期間で開催されました。3月定例会は次年度の予算審査が中心です。今回は条例制定14件、事件決議7件、補正予算2件の審査も行われました。戸田市政になって初の予算。「市民ひとりひとりが輝く」内容になっているか、質疑内容は次ページから。

## 新規事業・拡充事業

### 未来を担う人づくり(約4億1,300万円)

- 子どもの遊び場拡充  
津名子育て学習センターの土曜日又は日曜日開設
- 通学者助成金  
高校生の市バス定期代の全額助成  
市外高校通学者公共運賃1/2助成(上限10万円)
- 小中学校の不登校支援員を全校に配置
- 高校生までの医療費無償化の所得制限撤廃



### 選ばれるまちづくり(約1億1,600万円)

- 島外からの若者夫婦・子育て世帯の住宅購入補助
  - ①新築住宅:100万円(上限)
  - ②中古住宅:80万円(上限)
 市内事業者利用加算、子育て世帯加算あり
- 女性活躍推進事業  
企業が女性活躍に向けて実施する研修等に係る経費助成
- まちの魅力度アップ支援事業
  - ①地域団体:上限20万円
  - ②各町内会:上限50万円



### 健康長寿でいきいきと暮らせるまちづくり(約1億550万円)

- 福祉タクシー等利用助成事業  
高齢者や障がい者のタクシーやコミバス利用料一部助成  
(住民税非課税世帯→本人非課税に変更)
- 住民健診事業  
胃内視鏡検査が追加
- がん患者アピアランスサポート事業  
所得制限廃止



### 新たな魅力と活力の創出(約1億2,200万円)

- 世界的観光立島事業  
神戸三宮バスターミナル・ミント神戸広告事業  
観光ガイドブック翻訳版作成  
インバウンド向け地域コーディネーター販路拡大  
世界に誇る食のエリア形成プロジェクト
- 地産地消推進事業
- 中小企業支援事業  
経営課題の相談業務に加え、新たに開業支援セミナー開催



### 持続可能な市政運営の確立(約14億1,200万円)

- 自分ごと化会議の開催
- 保育ICT導入  
保育記録のデジタル化または自動化するICTシステムの導入
- DX推進のための研修実施、推進計画策定
- 教職員の働き方改革の推進  
電話録音機、電話アナウンス装置設置  
水泳監視業務委託  
デジタル採点システムの導入



### 強靱なまちづくり(約2億7,200万円)

- 生活道路安全対策事業  
通学路などの生活道路に、地域の実情に応じた車両の減速を図る対策を実施  
(例ハンプの設置、路面標示材など)
- 被災者支援システムの導入  
災害時の家屋被害認定調査や罹災証明発行業務効率化のための県内統一システム導入



中止になる事業

●淡路市夏まつり ●敬老会

# 予算質疑あれこれ



予算質疑の流れはどうなっているの。



## ①市が予算案を提出

市長(執行部)が「来年度はこういう事業に、これだけお金を使います」という予算案を議会に提出します。

## ②本会議で説明

議場で全体説明があり、どんな重点施策か、なぜ必要かなどの説明を受けます。

## ③委員会で詳しく審査

チェックするポイント→この事業、本当に必要?金額は適正?無駄や重複はない?市民サービスにちゃんとつながる?実際にやること→担当課に質問し、資料の提出を求める、他市との比較を確認、効果(成果)が出るか議論 ここが議員の腕の見せどころです!

## ④討論・採決

討論で賛成か反対かを表明し、起立により採決します。

## ふるさと納税頼りの本市財政(総務部関係)

**問** ふるさと納税の税収が増え、多くの事業に活用されている。市が常に管理すべき恒常的な経費にも充てられ、予算配分として不安定ではないのか。

**答** 多額のふるさと納税を使って、予算編成をしているのは事実です。本市には施設数も多く、維持管理にも活用しています。新たな補助金制度や所得要件の緩和などで毎年のように歳出が増え、非常に厳しい財政状況です。



## 市内在住外国人支援(企画情報部関係)

**問** 在住する外国人は何人いるのか。また、どんな支援を行っているのか。

**答** 令和8年2月末時点で856人。津名322人・岩屋64人・北淡126人・一宮69人・東浦275人。特定技能1号167人、技術・人文知識・国際業務136人、永住者88人、留学44人など。国籍は、ベトナム240人、ミャンマー124人、ネパール78人、韓国67人、インドネシア66人が上位5ヶ国です。生活支援として外国人相談窓口を設けています。また、日本語学習支援も行っています。

## 姉妹都市交流事業への予算目的

**問** 40周年記念事業は何をするのか。

**答** セントメリース市・パラナグア市へ、市長以下使節団を派遣します。それぞれに、約400万円の予算を見込んでいます。

**問** この事業は本当に必要なのか。オンライン等の検討は。  
**答** 旧町から引き継がれた交流で、国際分野の知識を持つていくという目的があります。友好協力の確認をするためにも必要と考えています。世界情勢も踏まえ、検討したいと思います。

